

マゴソ通信



こんなに原稿を書く事がつらい日々がやって来るとは思いもしませんでした。まずは、皆さまにおかれましては様々ご苦勞なさっていることと存じますが、健やかに過ごしのことと信じております。

この春、帰国して駆け足ではあるものの各地の皆さまにお会いする計画だった早川千晶さんのキャラバンは、コロナ禍による移動の制限で実施不可能となり私たちも非常に残念に思っております。

とりあえず、この間の嬉しいニュースから。前号でもお知らせした日本留学中のドリスが希望通り大学院に合格することができ、また皆さまの暖かい協力でクラウドファンディングも成功しました。仲間として共に喜んでおります。アグネスも最終学年を迎え、将来に悩みつつも頑張っています。引き続き応援よろしくお願い致します。

今回のコロナ禍でマゴソスクールも閉鎖され、ジュンバラワットに暮らす子どもたちも皆、親・親類の元に帰されました。ケニアに残った早川さんは、給食がなくなり食に困窮する子どもたちを中心に食料配布にご尽力頂いておりますことは、本紙の報告をご参照ください。

今回の様な地域、国、社会を越えた危機において、そのしわ寄せを食らうのはいわゆる社会的弱者であり、その最たる例がスラムに暮らす人々で、感染症の拡大を防ぐ為とは言え、それでもなくともギリギリの生活をしていたのに、収入を失い、飢えと様々な感染症や疾病による命の危機が容易に訪れることになります。互いに苦しい時期だからこそ、互いに支え合っていきたいと思えます。

ただひと言、マゴソのみんな、生き抜いてくれ！

そこで今最もお願いしたいことは、給食のなくなった子どもたちを支える為に、とりあえずは早川さんたちが取り組む食料配布の資金獲得です。既に様々取り組んで下さっていますが、私どもとしては、このキベラスラムの、マゴソスクールの子どもの家庭を応援したい、何か少しでも助けの手を差し伸べたいと思ってくださる方がいらっしゃいましたら、マゴソスクールを支える会に一般寄付としてお振込みいただければありがたく存じます。ケニアに送金して食料配布の資金とさせていただきます。また、その他の方法をご希望の方は早川さんまで直接ご連絡いただけますと幸いです。

支える会はこの困難を乗り越えた後も見据えながら、しっかりと準備し活動して行く所存ですので、引き続きサポーター、給食募金などよろしくお願い致します。

最後に早川さんからのメッセージをお借りして、皆さまへのご挨拶とさせていただきます。

「どうか皆様も、お体にお気をつけて、ご無事をお祈りしています。

また、この難しい問題を世界中のみなで協力し合い、励まし合って乗り切っていきたいと願っています。

ご心配をいただき心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。早川千晶」

会長 大城研司

支える会からのお知らせとお願い

- 2020年4月現在のサポーター数は363名です。
- パンフレット・会報等が入用の方は事務局までご連絡ください。
- 会報が重複して届いていたり、不要な場合は、事務局までお知らせいただければありがたく思います。
- 振込用紙は発送作業の都合上、全員に入れさせていたいております。ご了承ください。
- 会費の領収書が、必要な場合は事務局までお知らせください。
- 専従スタッフがおりませんため、ご寄付のお礼(領収書)の発送が遅れますことお詫び申し上げます。

寄付振込先

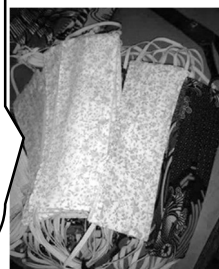
【郵便局】

口座番号: 00810-9-216335
(記号: 00810 番号: 216335)
マゴソスクールを支える会

【ゆうちょ銀行】

0 八九 (ゼロハチキュウ) 店
当座 0216335
マゴソスクールを支える会

リリアンが
作った布マスク



マゴソスクールを支える会

事務局 〒511-0044 三重県桑名市大字萱町54-1

Mail: info@magoso.jp HP: <http://magoso.jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/magososupportersclub/>

コロナウィルスに関連したキベラとマゴソスクールの現状報告

すでに早川千晶さんのフェイスブックでの報告をご覧いただいている皆様もおられるかと思いますが、コロナウィルスに関連したキベラスラムとマゴソスクールの近況を早川さんの報告を編集してお知らせいたします。

1. キベラスラム近況

(1) ケニア全体の動き

3月15日に大統領令が発令、3月16日から学校閉鎖、3月22日に再び大統領令、3月25日深夜ですべての国際線が停止、3月27日から夜間外出禁止令（午後7時から午前5時）、4月6日からナイロビを含む4地域で部分ロックダウン（都市への出入りが禁止）、4月10日からマスクの着用義務化（罰金制）

(2) スラムの人々の状況

マゴソスクールとジュンバ・ラ・ワトトを合わせて600人近い子どもたちの家庭は、ほとんどがお手伝いさんや警備員などの低賃金労働者や、夜明け前から深夜まで長時間働き、路上で野菜など食料を売るなどしてやっとその日の糧を得ている低収入の小規模商売の従事者、病人、怪我人、障がい者も多く、生活状態が非常に厳しい家庭ばかり。会社や店の閉鎖により警備員は解雇され、雇主の帰国やコロナ対策のためにお手伝いさんは解雇され、小規模商売人は、客が職を失いお金がないので、商売を続けても売れない。赤字が続く、翌日仕入れに行くお金がない。

田舎もない人たち、故郷の村は貧しすぎて耕す畑も住む家もない人たち、倍以上に値上がりしたバス代を捻出できないまま、ナイロビ封鎖になってしまったという人たち、彼らはスラムにとどまるしかない。

日に日に悪化していく状況下で、最底辺の人々の飢えがはじまっている。日本や世界でも報道された食糧援助の際に起きた大混乱によって住民2名が死亡（これについては、スラムの人たちが無秩序だからなのではなく、行政側の能力問題であると考えられる）。それ以降、政府からの食糧援助管理も厳しくなり、住民も怖がり、慎重になっている。

4/22 現在、行われている支援の一つは、不定期の水の無料配布。スラムの家には水道がなく、水は買って運んでいる。水をもらえたら、水を買うはずだったお金で食料が買うことができる。食料援助は、早川さんが知る限り、個人で行っている小規模のものが、3つ。早川さんたち、教会、スラム出身のサッカー選手たちによるもの。恩恵を受けられる人々は、スラム全体からしたら微々たるもの。

田舎に避難した空き家に、飢えた人々が夜中に押し入り、食料と燃料を奪っている。燃料が高価なため、生活費の中での負担が大きい。高価なガスのシリンダーはも

とより、木炭、灯油、薪、どれもがお金を出して買わなければならない、食料が手に入ったとしても煮炊きができない。泥棒に入った若者（凶悪な若者ではない）2名が、モブジャスティス（貧困層の間では自らの暮らしを守り、コミュニティの秩序や安全を守るための集団リンチ）で住民たちの袋叩きにあつて死亡した。

(3) 早川さんの思い

私がいまスラムの様子を垣間見ることが出来るのは、夜間外出禁止令にかからない日中や、スラムに住む友人たちを通じて知ることしか出来ないが、夜間には、私たちが想像もできないような緊張感と恐怖の中で人々は朝までの時間を過ごさなければならない。それでも、日中に垣間見る姿は、多くの人々はこの非常事態によく対応して、我慢強く、生き抜こうとしていると思う。不自由になったことや不安要素は非常に多いが、それでも人々は、日々を生き抜こうとしてありとあらゆる手を尽くそうとしている。路上でマンダジや野菜を売る人々は、バケツに蛇口をつけて、お客さんのためのハンドウォッシュポイントを設置し、手渡ししなくても商品を清潔に渡すことが出来る工夫をしている。

もともと長時間労働で身を粉にしなければ日々の糧が得られないほどの貧困者たちが、夜間外出禁止令のために経済活動ができる時間を制限され、さらに不利な状況を強いられているが、それでも、ありとあらゆる方法で仕事や収入を作りだそうとしており、生きることをあきらめていない人々が今日も家の中でゆっくり休むことは出来ず、朝も昼も夕方も、忙しくスラムの中から出入りを続けている姿を、延々と、延々と道路を歩き続ける姿を見る。

車が行きかう道路でもリヤカーを引き、物資を運び、路上で様々な物品を売ることを試みる人々の姿を見るにつけ、その生きるための努力に今日も私は胸が詰まる。どれほどの不安にさらされていようとも、彼らはスラム以外に住む場所はなく、不満や不安を訴えるヒマもなく、とにかく今日を生き抜く努力をしている。スラムで手作りマスクを作り、それを一般の住宅街の道路わきで売っている人々も最近は多く見かける。とにかく何でもいいから毎日毎日少しでもお金を作りださなければ生きていけないのだから、文句を言っていないものにもならないのだから。

オギラ先生からのメッセージ

Service to humanity is service to God. I will always try my best to reach and serve the kibera people. It's challenging and hard but your support as a team we can make it. Pass my thank you message to all our supporters and friends. Let's all be safe because the future needs us all.



配給食料を運ぶ
ショショー



2. 食糧配給支援

(1) 雨期に入ったケニアとスラムの生活

冬に向かうケニアは 6 月から 8 月はかなり気温が下がり、標高 1800m 近くの高地のナイロビでは、朝晩は日本の冬と同じくらい冷え込む日もある。そんな冷えを、半壊状態の長屋の一室で耐えなければならないスラムの人の暮らしを想像してほしい。

雨が降りこむほど壁は崩れ、雨漏りし放題なほど屋根に穴が開いている。雨漏りで水浸しになった毛布やマットレスはなかなか乾かず、子どもたちは土がむき出しの土間にズタ袋を敷いただけの寝床にギッチリと折り重なるように寝ているのだが、そこに流れ込んできた汚水でドロドロになっている。

そんな生活環境しか得られない暮らしの状況で、衛生を保ち、コロナと闘わなければならない。その環境で、子どもたちを病いから守らなければならない。

「もしもそれが自分なら。」と。

最近、スラムでは咳き込む人が多くなった。雨が降るとひどい風邪をひく人たちがスラムでは増える。栄養状態が悪く、慢性的な疾患を抱えている人も多い。再び暖かくなるまでの約 4 ヶ月間 (5 月～8 月)、このコロナとの闘いや、それに伴う経済状態の悪化を合わせ考えると、キベラスラムでは非常に厳しい生死をかけた戦いが長期戦になることが予想される。食べていないと、体はよけいに冷えて、抵抗力を無くす。出産したばかりで乳飲み子を抱えた母親もいるし、妊娠中の女性もいる。

(2) 食料配給支援

早川さんは、最初は食料を買って配布していたが、今後の配布について悩んでいたところ、いただいたアイデアからバウチャー方式の食料支援をすることに決め、その準備を整え、102 世帯、約 700 名への支援を行った。「これは今回 1 回きりの単発ではなく、毎月行っていきたいと考えている。また、今回は予算不足で出来なかったが、困窮して食料を必要としている人たちが他にも多数いる。そのため、出来る限り多くの資金を作りだし、対象家族も増やし、出来れば各家庭に提供する食料の量も増やせたらそれに越したことはない。」

今回の食糧配給システム

特別な理由がない限り、マゴソスクールとジュンバ・ラ・ワトトの生徒の家庭を対象

① 最も困窮していて支援を必要とする世帯の特定

家庭状況の聞き取り、家庭訪問、各世帯の子どもの数、保護者電話番号と ID 番号を一覧表にしていた。最優先すべき家庭は、もともと貧困苦だったがコロナ

でさらに収入が無くなった家庭、保護者が病気を抱えている家庭。特に HIV ポジティブの人、かつて肺結核を患ったことがある、もしくは現在闘病中の家庭。そして、病気や障害のある子どもを抱えた家庭。受取人は基本的に母親 (母親が死亡している場合、家事を支える女性) に指定。予算内のリストには収まりきれず、ウェイティングリストになっている家庭もある。

② 最低限必要なアイテムの特定と値段の調査

一世帯あたり 3000 シリング (約 3000 円) の予算に収めたいと思ったが、実際は 3,164ksh となった。品目は以下の通り (スラムの人々の希望を聞いた。) トウモロコシの粉 8kg、米 5kg、小麦粉 2kg、塩 1kg、砂糖 2kg、紅茶 250g、黄色い豆 2kg、デング豆 2kg、料理用油 3L、棒石鹸 900g x2 本、粉洗剤 500g。

料理用の燃料 (灯油) もリクエストされたが、予算的に厳しいのと配布方法が難しいので、今回は除外した。

③ スーパーマーケットのマネージャーと打ち合わせ

午前と午後 to 人数を分け、時間差で来店するように受け取る人に指示。4 日間で全員に対応できるようにする。スーパーマーケットにリストを持参し、バウチャーの購入。各バウチャーには、受取人の名前、ID 番号を記入し、購入アイテムのリストを添付。

④ 受取人には秘密に SMS で連絡

指定された日時にバウチャーを取りに来て、指定された日時にスーパーマーケットに取りに行く。

すべての段取りを、途中でいかなる不正も発生しないように、また、混乱を引き起こさないように、細心の注意を払った。

この方式でやってみて、この方法なら資金さえあればもっと多くの人々に安全に食料を提供することも可能だと思ったので、来月はこのリストに加えて、ウェイティングリストになっている人にも提供できるようにしたい。

尚、マスクに関してはリリアンがマスクを作り、マゴソスクールの近所の人々や必要とする保護者には無料で配布している (オギラは自分で作った。)

さて、今月はこの方式で提供した世帯と、その前に私が Mpesa で支援を送っていた世帯、ロックダウン前の田舎への移動交通費の支援、医療費支援など、合わせると、約 50 万円の支援を行った。来月からこのくらいの金額 (もしくはそれ以上) は毎月何とか確保していきたい。



ショショーが作った
ハンドウォッシュポイント

近所の子どもたちがお腹をすかせて大勢やってくるけど、政府の指示で学校は閉鎖しなくてはならないので、門の中に入れることが出来ない。ただドリリアンは給食を作り、戸口から子どもたちに配給している。



バウチャーを受け取った家族

2019年 会 計 報 告

【日本側の収支報告】

自 2019年 1月 1日 至 2019年 12月 31日

(単位:円)

収 入 の 部			支 出 の 部			
年 月	項 目	金 額	年 月	項 目	金 額	備 考
2019/01	前年度繰越	1,041,438	2019/01	ケニアへ送金	1,841,438	US\$16,600
2019/01	1月入金額(会費+寄付)	1,679,426	2019/04	ケニアへ送金	4,304,204	US\$38,246
2019/02	2月入金額(会費+寄付)	610,755	2019/08	ケニアへ送金	974,970	US\$9,000
2019/03	3月入金額(会費+寄付)	2,769,030	2019/08	ケニアへ送金	1,932,660	US\$18,000
2019/04	4月入金額(会費+寄付)	606,992	2019/08	ケニアへ送金	977,850	US\$9,000
2019/05	5月入金額(会費+寄付)	733,723	2019/09	OBOG奨学金	480,000	
2019/06	6月入金額(会費+寄付)	1,959,481	2019/12	ケニアへ送金	1,172,930	US\$10,604
2019/07	7月入金額(会費+寄付)	905,441				
2019/08	8月入金額(会費+寄付)	929,233				
2019/09	9月入金額(会費+寄付)	584,578				
2019/10	10月入金額(会費+寄付)	919,841		銀行手数料	12,000	
2019/11	11月入金額(会費+寄付)	1,424,372		小 計	11,696,052	US\$101,450
2019/12	12月入金額(会費+寄付)	4,702,017		次 年 繰 越	7,170,275	
	合 計	18,866,327		合 計		18,866,327

【日本側収入の内訳】

(単位:円)

	項 目	金 額
収入	前年度繰越	1,041,438
	会費	5,283,954
	一般寄付	2,255,820
	団体寄付	5,814,104
	給食募金(お振込み)	977,489
	給食募金(募金箱)	378,276
	給食募金(ポレポレキャラバン)	168,607
	特別学級支援	180,000
	クリスマス寄付	114,767
	音楽大会寄付	424,866
	物販売上	125,435
	OBOG支援	991,100
	校舎修繕	1,110,462
	利子	9
	総収入	18,866,327

(単位:ケニアシリング)

	項 目	金 額
収入	給食募金	46,358

【ケニア側の収支報告】

自 2019年 1月 1日 至 2019年 12月 31日

(単位:ケニアシリング)

収 入 の 部			支 出 の 部		
年 月	項 目	金 額	項 目	金 額	備 考
2019/01	前年度繰越金	1,542,635	マゴソ職員給料	4,539,000	
2019/02	支える会から送金 USD16,600(1ドル 99.7ksh)	1,655,020	マゴソ給食費	2,746,165	
2019/04	支える会から送金 USD38,236(1ドル 100.4ksh)	3,838,894	マゴソファミリー生活費	704,680	
2019/08	支える会から送金 USD9,000(1ドル 102ksh)	918,000	ジュンバラワト経費	1,765,650	
2019/08	支える会から送金 USD27,000(1ドル 101ksh)	2,727,000	音楽大会経費	249,000	
2019/12	支える会から送金 USD10,604(1ドル 96.2ksh)	1,019,967	文房具・制服	109,098	
			クリスマス	202,000	
			建設費	1,249,570	
			その他の経費	403,778	
			銀行手数料	5,069	
			小 計	11,974,010	
			次 年 繰 越	-272,494	現地立替
	合 計	11,701,516	合 計	11,701,516	



Message from Kibera Slum, Kenya – Listen, don't wait to see corona —Corona kotekote—
 待ってちゃダメだ
 コロナウィルスが何者なのかわかるまで
 待ったらダメなんだ
 出来ることをしよう
 自分のために、家族のために 人や親戚のために
 そして世界のすべての人たちのために
 未来は私たちすべての人を必要としている
 アジア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、そして
 その全ての人たちに出来ることがある
 手を洗おう 指示に従おう
 そしてコロナに打ち勝つんだ

YouTube で配信中